

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	木本 義明 印
所属機関	NTT 東日本関東病院
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	UEGW 2019
渡航期間	自 2019/10/20 至 2019/10/25
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	『The safety of cold snare polypectomy on antithrombotic therapy』 『LONG-TERM OUTCOMES IN T1 COLORECTAL CANCER AFTER ENDOSCOPIC AND SURGICAL RESECTION』
<p style="text-align: center;">研究成果 （ 要約：800 字 ）</p> <p>2019 年 10 月にバルセロナで開催された UEGW 2019 に参加させて頂き、『The safety of cold snare polypectomy on antithrombotic therapy』 『LONG-TERM OUTCOMES IN T1 COLORECTAL CANCER AFTER ENDOSCOPIC AND SURGICAL RESECTION』 という 2 演題をオーラル発表させて頂きました。『The safety of cold snare polypectomy on antithrombotic therapy』 では増加する抗血栓薬内服患者に置ける内視鏡治療での 1 番の問題となる後出血についてで、抗血栓使用下での Cold Snare Polypectomy (CSP) の安全性について検討しました。当院での結果は後出血が 0.4% (1/235) : 0.2% (2/1169) で有意差は認めず (p = 0.42)、出血例は使用群ではアスピリン単剤継続の 1 例のみで、後出血例の全てが複数病変切除例でした。検討結果としては抗血栓薬内服下でも CSP の後出血リスクは極めて低く、抗血栓薬中断に伴うリスクをも回避できる低出血リスク手技である事が示唆されました。質疑では切除後のクリッピングの有無についてで、結果としては有無での出血の有意差はなく、今回の検討では有無は術者判断であった。次に『LONG-TERM OUTCOMES IN T1 COLORECTAL CANCER AFTER ENDOSCOPIC AND SURGICAL RESECTION』 では、pT1 大腸癌について検討しました。未だ pT1b 癌の治癒基準などについて議論になる分野であり、今回我々は単一施設で 944 症例をまとめ、長期予後を検討しました。944 症例を A) 内視鏡治療単独群、B) 外科手術群 (内視鏡治療後追加群+外科手術単独群) に分け、さらに A 群は A-1) 内視鏡治癒群と A-2) 非治癒群検討に分け、B 群は同時性リンパ節転移を認めない B-1) と認めた B-2) に分けた。結果は A-1) 群では再発を認めず、A-2) 群では 8.3% の再発を認め、いずれも直腸病変で、B-1) 群では再発を認めず、B-2) 群にて 2.2% で再発を認めた。B 群での再発のリスク因子としては同時性リンパ節転移のみが有意なものであった。結語としては、直腸病変の内視鏡非治癒であれば追加切除を検討すべきだが、手術後も pT1 癌であっても同時性リンパ節転移を認めた症例は低率であるものの再発は起こりうるため厳重なフォローが必要であるとしました。質疑では再発症例での Budding についてでしたが、本検討では Budding は再発のリスク因子とはならなかった。上記内容を発表させて頂き、またポスターのレビューアもさせて頂き、医師 6 年目で貴重な経験をさせて頂きました。本機構のおかげ様でご支援をいただけ、発表に集中する事が出来ました。この場を借りて感謝申し上げます。</p>	

